

## Ⅱ. 研究開発単位Ⅰ：中学課題探究Ⅰ「総合人間科」

doi: 10.18999/bulsea.62.65

## 第1章

## 概 要

三小田 博 昭

## (1) 目的

身近な疑問から地球的規模で多岐にわたる内容を中学段階で取り扱うことで、探究する心を育成し、高校で行う仮説検証型課題研究「課題探究Ⅱ」に繋げる。中学3年間の調べ学習を主体とした研究から、仮説検証を主体とした探究へと段階的に移行することにより、探究が着実な成果をあげる。また、個人研究とグループ研究の両方を経験することで、高校における研究体制への素地を築く。

## (2) 期待される効果

1年で1つの課題に取り組むことで、興味関心を広く持ち、調べ方・まとめ方を身につけていく。このステップを通して調べ学習から探究への深化ができる。「課題探究Ⅱ」に繋がる課題を幅広く研究の対象として扱うため、高校1年で探究テーマを的確に短時間で設定することができる。また、専門家を訪問して聞き取り調査を行う活動全般を通して、効果的な調査研究方法や行動規範を中学から身につけ、社会との密接な関係を意識した学習を進めることができる。

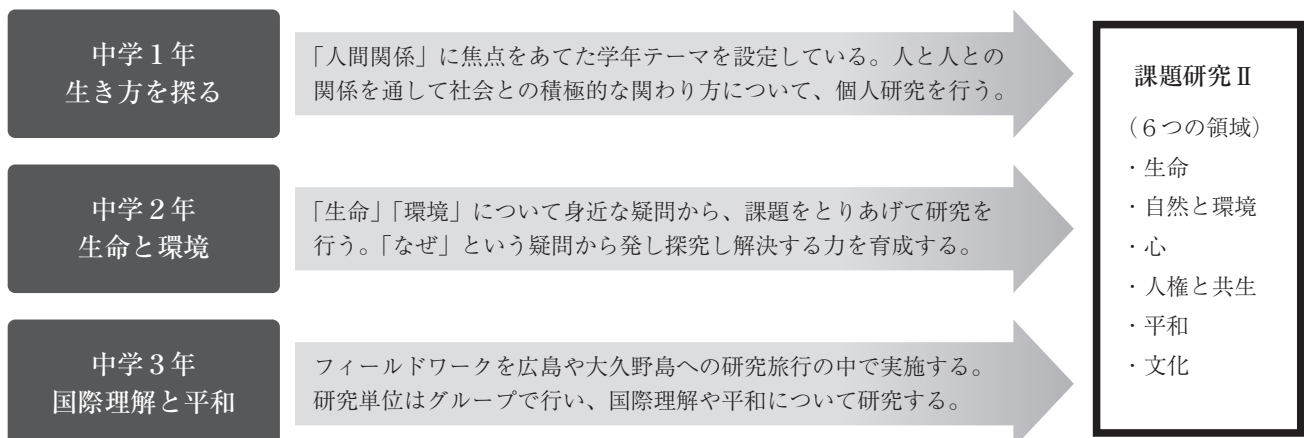
## (3) 内容

中学の各学年で行う「課題探究Ⅰ」に学年ごとの大テ

マ（中学1年生「生き方を探る」、中学2年生「生命と環境」中学3年生「国際理解と平和」）を設定する。中1「生き方を探る」では、将来のキャリアパスに繋がる研究テーマを設定し、興味や関心がある分野を広くとらえ課題研究の基礎をつくる。中2「生命と環境」では、「課題探究Ⅱ」の生命／自然と環境／心の各分野に繋がる基礎的な研究を実践する。中3「国際理解と平和」では、「課題探究Ⅱ」の人権と共生／平和／文化の各分野に繋がる基礎的な研究を実践する。

## (4) 指導体制

中学1年～中学3年それぞれの学年に担当された全教員が関わる。各学年では中学課題探究Ⅰ「総合人間科」を中心的に行う責任教員が中心となり指導計画や実施計画を立案する。「総合人間科」は隔週2時間連続で行われる。研究は、4月に行われる全体オリエンテーションで始まり、学年の途中で中間研究報告会が行われる。そして2月を中心に研究成果発表会が行われる。研究成果発表会は、ポスターセッション、スピーチ、パワーポイントを利用して行われる事が通常である。生徒や教員だけでなく、多くの保護者や研究協力者が、生徒の研究成果発表会に参加する。研究成果発表は、生徒による投票や参加者による投票により表彰される機会がある。また、優れた研究成果は、学年代表者発表会や外部のコンクールなどで発表されることもある。（文責 三小田博昭）





## 第2章

# 中学1年生

渡 辺 武 志・齊 藤 瞳・松 本 拓 也  
近 藤 さやか・大 矢 美 香

### 1) テーマ

生き方を探る I

サブテーマ 出会いから人生を考えよう

### 2) 学年目標、ねらい、伸ばしたい力 など

- ・身近な人から初対面の人までさまざまな人との対話から多様な考えることを認識する
- ・自分の興味関心のある職業の人にフィールドワークを行い、未来を創るための参考にし、深く理解する姿勢を身につける
- ・自分で未来を創るための基本的な能力を身につける
- ・6年間使う基本的な能力を身につける。  
メモの取り方、調べ方、アポの取り方、質問の仕方、手紙の書き方、まとめ方など
- ・自分が興味関心のあることについて探究する力

### 3) 活動内容

(前期) インタビューの練習、メモの取り方手紙、レポートの書き方、発表の仕方

(後期) フィールドワーク、FW発表会、研究集録の作成

### 4) 評価基準と方法

発表、レポートなど個人の取り組みの評価

生徒による自己評価、仲間による評価

研究集録の執筆

FWの取り組みとまとめ

基準：達成度によりA、B、Cで評価する。

### 5) SGHとの関連

家庭→学校→名古屋大学→社会と研究調査のフィールドを広げていくと同時に、総合人間科を6年間学ぶための基本的なスキルの習得を目指す。課題設定、調査研究、まとめ、プレゼンテーションなどの活動を通して、自分で未来を創るために必要な具体的な手段を知り、自己決定する経験を積ませ、自分の生き方について能動的に考える。

### 6) 授業計画

(前期)

4月8日	オリエンテーション、保護者へのインタビュー準備	教室
4月12日	SL①よいところ探しの自己紹介ゲーム・仲間へのインタビュー	教室
4月14日	授業参観 総合人間科の公開授業 保護者へのインタビュー実施感想発表①	図書館
4月21日	保護者へのインタビューのまとめ・発表②GWの課題：伝記を読んで生き方を考えよう	教室
5月9日	「伝記から学んだこと」発表③	教室
5月16日	SL②「頼み方」・遠足の準備	教室
5月19日	実習生へのインタビュー準備・実習生へのインタビュー実施	教室
5月26日	SL③「断り方」・「実習生から学んだこと」発表④	教室
6月2日	職業に対して興味関心のあることを調べる－図書館の活用①	図書館
6月27日	SL④「記憶の不確かさ・あいまいさ」 職業に対して興味関心のあることを調べる－図書館の活用②	図書館
6月30日	職業に対して興味関心のあることを調べる－図書館の活用③ 夏休みの課題指示 (FW訪問先を探す)	図書館
9月1日	FW準備①FW訪問先候補決定、電話でのアポ依頼状の下書き	教室
9月26日	FW準備②アポ取り、質問事項作成 予備日9月29日	教室

(後期)

10月13日	6限総人 FW準備③依頼状作成・質問事項作成	教室
10月20日	FW準備④依頼状完成・質問項目完成	教室
10月27日	FW準備⑤FWについての諸注意(5限) 事前研究(6限)	教室
11月7日	FW準備⑥依頼状完成・質問項目完成・事前研究	教室
11月10日	FW本番	



11月14日	FWまとめ 礼状書き	教室
11月17日	研究集録執筆①下書き1	教室
11月24日	研究集録執筆②下書き2	教室
12月8日	研究集録執筆③清書	教室
1月12日	FW発表会準備	教室
1月19日	FW発表会準備	教室
1月26日	FW発表会① (グループ発表)	各教室
2月13日	FW発表会② (学年発表)	第1 総合
3月2日	教育学部 窪田先生 よつば相談室 との合同授業	交流 ホール
3月6日	SL⑤「クラスメイトの印象は1年間で どうなった？」	教室

## 7) 教育学部との連携

今年度は本校のよつば相談室、教育学部の窪田先生、中学1年学年団とで「心の授業」の授業づくりを行っている。

「心の授業」では震災時のストレス反応の授業がメインとなる。また、中学1年生対象の授業であるため、授業の準備として、「ストレス対処法」の授業作りも行っている。これらの授業は3月2日に2時間連続授業で実施される。(文責 渡辺武志・松本拓也)



## 第3章

# 中学2年生

中 村 忍・加 藤 直 志・佐 藤 愛 子  
曾 我 雄 司・若 山 晃 治

### (1) 目的

テーマを「生命と環境」と設定し、自然事象や社会環境について興味関心を広げさせ、生徒それぞれが興味関心を持ったものごとについて、筋道を立てて探求する力を育成する。グループ学習を通じて、相互理解を深め、協力して問題解決にあたる姿勢を育む。持続可能な社会を作るために自分たちには何ができるかを念頭におきながら研究を進める。

### (2) 活動内容

林間学校の機会を通じて、「生命と環境」についての興味関心を深め、研究の下地となる体験をする。グループでテーマを選択し、研究・フィールドワークによって「生命と環境」のテーマの下に自分の興味関心を掘り下げる。乗鞍・上高地における学習に基づいて地球規模の問題につなげ、個人研究で興味関心をさらに深める。集録執筆・発表を通じて、自分たちの研究をまとめ、かつ他の生徒との研究・体験の共有をはかる。

### (3) 評価基準と方法

- 1) 教員による評価（ワークシートへの記入・提出、フィールドワーク等への取り組み、集録）  
ワークシート・集録の完成度、課題の提出状況、取り組みの状況
- 2) 生徒自身による自己評価（アンケート、発表や一年間の振り返り）
- 3) 成果発表会などにおける生徒間の相互評価、発表の完成度、話し合いへの参加状況

### (4) 系統性

- 1) 前年度とのつながり  
前年度は「生き方を探る」をテーマに、それぞれの興味関心に基づいた個人研究を進めた。  
今年度はグループ研究と個人研究を組み合わせながら、地域的なテーマから出発して地球規模のテーマへ発展させた。

- 2) 「持続可能な開発のための教育（ESD）」との関わり

現在社会が直面する「生命と環境」の問題は、ESDの本領とするところである。

- 3) SGHとの関連

前半は身近な課題に取り組み、後半では地球規模のテーマに発展させることで、グローバルな課題への入り口とした。現代的課題に対しての疑問点・問題点に対する自分の見解（仮説）に基づき、課題解決に至るための研究計画書を策定し研究を進めた。その過程でフィールドワークを行い、研究課題に関する専門家から意見を聞いた。研究集録は、テーマ設定の理由・事前学習で学んだこと・フィールドワークで学んだこと・まとめと今後の課題の順でまとめた。ポスター発表では英語科教員のサポートのもと、題名のみを英語でも表記することに挑戦した。

### (5) 授業計画

前半は林間学校の班ごとに、乗鞍・上高地地域における「地質」、「気象」、「動物」、「植物」、「産業」の各分野について1つずつ小テーマを設定し、遠足も動物・植物についての学習機会に位置づけた。グループで、事前学習をすすめ、研究成果をしおりにまとめた。後半は個人で、地球規模に広げた個人テーマを考え、ワールドカフェ方式で内容を共有し、さらに考えを深めるきっかけとした。文献などで事前研究を進め、フィールドワーク先の選定、アポイントメントを取ること及び依頼状の作成、集録執筆、ポスター発表を行った。

	授業内容（予定）
4月21日	オリエンテーション：グループテーマ（林間）、個人テーマ（遠足）、フィールドワーク・研究集録（個人）について
4月25日	事前学習（個人） 動物・植物について1人1テーマ以上設定
5月10日	遠足
5月19日	遠足のまとめ・グループ事前学習
5月26日	グループ事前学習
6月2日	グループ事前学習・林間しおり作成①



	授業内容 (予定)
6月9日	グループ事前学習・林間しおり作成②
6月29日 └ 7月1日	林間学校
7月7日	林間学校のまとめ・FW先について・個人研究テーマについて (夏課題)
9月1日	研究成果中間報告会
9月29日	フィールドワークのアポ取り・質問状・調べ学習
10月20日	フィールドワークのアポ取り・質問状・依頼状・調べ学習
10月27日	フィールドワークのアポ取り・質問状・依頼状・調べ学習
11月10日	フィールドワーク
11月17日	フィールドワークお礼状・研究集録下書き
11月24日	研究集録下書き
12月8日	研究集録清書
1月12日	発表準備
1月19日	発表準備
1月26日	ポスターセッション
2月16日	ポスターセッション
3月2日	まとめ

## (6) 検証評価

自分にとって探求する意義を感じるテーマを設定させ、問題意識を明確にし、事前学習を行うことや、フィールドワークで直接話を聞くことを経て、どのように考えが深まっていったかが伝わるように筋道立てて集録にまとめることを意識させた。

ポスターセッションでは聞く人が知っていると予測さ

れることや興味を持ちやすいことから自分が興味を持って調べたり考えたことをつなげて、話すことを心がけさせた。

昨年度より、発表の際には意見交換を積極的に行うことができており、今年度も様々な意見が出て、議論が盛り上がった。

さらに次年度や高校入学後には、仮説から検証への流れを明確にしていけるように指導を行っていきたい。

(文責 中村 忍)





## 第4章

# 中学3年

大 羽 徹・竹 内 史 央・澤 井 祐 哉  
渡 辺 絵 美・佐 藤 喜世恵

### (1) 目的

テーマ：国際理解と平和

ー 過去を学び、多面的に国際理解をし、  
未来を考える ー

- ・地球のどこかでなされた選択が、他の地域に影響を及ぼす、自分も周りの世界に対して影響力を持つ存在だという認識に立つ。
- ・自分の観点のみで理解したり、情報を確かめ評価したりすることは、誤解や争いの要因になるという認識を深める。
- ・地球のどこかでなされた選択が、他の地域に影響を及ぼす、自分も周りの世界に対して影響力を持つ存在だという認識に立つ。
- ・グループ活動を通して自分と異なる見方を知ることにより、多様な考えに対する相互理解を深める。
- ・貧困、資源の争奪、難民、紛争など、たくさんの課題をかかえる現状では、平和な国際社会は不可能なように思えるが、私たち一人ひとりの人間は、現状をよりよく変化させる力を持っているという未来への展望を持つ。

### (2) 活動内容

- ・貿易ゲームを通して、豊かなグループ（国）はより豊かに、貧しいグループ（国）はより貧しくなるというように、経済格差が拡大していく仕組みを理解する。
- ・「新映像の世紀」を通して、第一次、第二次世界大戦がなぜ起きたのかを知り、現在世界がどのような状態であり、何が起こりつつあるのかを考える。また、杉原千畝記念館を訪問、戦争体験者のお話しなど、直接の見聞を通して、平和について学びを深める。
- ・グループでテーマを設定し、事前学習をし、広島での研究旅行でフィールドワークを行うグループで国際理解と平和について考察する。
- ・グループ研究発表を通して、他のグループの視点や考え方を知る中で、個人が平和のために何ができるのかを考える。
- ・ダイヤモンドランキングを通して、平和推進のために

何に価値を置き、どう選択すべきかが個々に違いがあることを認識し、多様な考えを尊重したディスカッションをする。他の生徒の様々な見方があることを知る中で、繋がりや本質について考える。

### 平成28年度 中学3年生総合人間科実施計画

(前期)

回	授業内容
1	ガイダンス
2	貿易ゲーム
3	事前学習 「新映像の世紀」ビデオ視聴、杉原千畝に関する学習
4	遠足（千畝記念館、リトルワールド）
5	戦争証言者講話
6	事前学習 平和に関する考察
7	研究旅行グループ編成
8	研究旅行グループテーマ設定
9	FW候補地の検討

(後期)

10	FW候補地のアポイントメント、依頼状作成
11	事前学習、質問事項の確認
	研究旅行 広島平和記念資料館見学、被爆証言者講話、FW、毒ガス資料館（大久野島）
12	礼状送付、集録原稿下書き
13	集録原稿下書き完成
14	集録原稿完成
15	グループ研究発表会準備
16	研究クラス発表会
17	研究学年発表会
18	ダイヤモンドランキング
19	1年間の振り返り

### (3) 検証評価

研究学年発表会終了後に「感想・まとめ・疑問点など」のアンケートを行った。1部を抜粋する。

- ・今年一年で得たものは多かったと思う。



- ・図やグラフなど、ポスターに工夫が凝らされていた。
- ・声の具合や声色も変えていて、発表に迫力があつた。
- ・自分の班も6回分聞くと、新たに考えが浮かんできて、発表はすごいと思った。
- ・どの班も質問に丁寧に答えてくれて嬉しかった。
- ・テーマや訪問先が同じでも、考え方や視点が違って興味深かった。
- ・班によって研究結果が違うことが不思議だと思った。
- ・たどりつく結論はいろいろ。でも、本質は同じだった。
- ・抽象的な結論が目立った。すべき行動を示したい。
- ・平和とは何か。結論を出すことはとても難しいと感じた。
- ・原爆の悲惨さは絶対に忘れてはいけない。
- ・平和学習に終わりはないとわかった。

グループ活動では、フィールドワークを研究旅行中の広島で実施されたが、いろいろな意見が出てくる中で共通点、異なる点を見つけることによって、意見を1つにまとめていくことの大切さを学んだ。他のグループの発表を聞くことにより、生徒の感想「たどりつく結論はいろいろ。でも、本質は同じだった。」から、問題の本質を理解することができたと考える。

3年間、自ら興味のあることについて調べ、その問題について深く考える大切さを学んだと考える。また、分かりやすく発表するために、どのようにまとめ、話せばいいのか、工夫がみられた。(文責 大羽 徹)